



日本発の希望と励まし Hope and comfort from Japan

Fujiko Signs / サインズ・富二子

今、東京にいます。私は「地震」ではなく、「地のめぐみ」という Eメールのファイルをつくりました。日本が、近年、経験した最も悲しい災害を乗り越えることを望み、願う 150 以上のメールが、このファイルに入っています。

「地のめぐみ」と名付けた理由は、私たちは、唯一の故郷（ふるさと）である惑星、地球から、自然の呪いではなく、美しい地のめぐみだけを受けていることを、見つづけていたからです。この「故郷」を改善する唯一の方法は、地球を霊的視点から見ることです。それは、キリスト・イエスがすべての人に与えた「主の祈り」の言葉、「**あなたの国が来ますように**」、そして「**あなたの意志が天に行なわれるとおり、地上でも行なわれますように**」という宣言の真意を、実現させるための霊的視点です。

キリスト教科学の発見者、創始者、メリー・ベーカー・エディは、この言葉に次のような霊的解釈を加えています：「**あなたの国は来ています；あなたは常にここにいます**」、そして「**天におけるように地上においても、神が全能で、至上であることを知る事ができますように**」（『科学と健康—付聖書の鍵』、pp. 16-17）。

物質主義の長いトンネルの先に見える唯一の光、希望は、私たちの考えを霊化することです。これほどに崩壊された現実の前で、私たちは、物質的観点から生存を測りがちです、つまりそれは、例え、エネルギーであれ、機会であれ、剥奪されるという恐れ、限られた供給を奪い合っても仕方がないという視点です。しかし、このような視点に立つならば、物質的創造と破壊の歴史を繰り返すのみとなりましょう。物質の力に頼って紛争や動揺を克服しようとすることは、結局、非生産的な物質的視点の一端に他ならないのです。

Author's Name / Fujiko Signs

他の日本語記事については、次をご覧ください：<http://www.christian-science-sakigake.com>

しかしながら、霊的観点はそれとは違って、日々の忍耐、冷静、平安に現されます。それでは、これらの本性が、地震や津波の影響を鎮めることができるのでしょうか。

この東京が、私もかつて経験したことのない地震に襲われたとき、隣人があるアメリカ人に「大丈夫、大丈夫ですよ」と言われて、本当に慰められたと言っていました。彼女はそのとき、平安が彼女を洗い流したように感じたと言い、恐怖心が消えてしまった、と言っていました。この小さな言葉の裏に、どんな力があつたのでしょうか。

隣人の話をきいて、「静まれ、黙れ」と言って、イエスが嵐を鎮めた話を思い出しました（マルコ 4:39）。

ただ単に「静まれ」と言うことで、嵐や地震、火事を鎮めることができるのでしょうか。それともその裏には、この地球が私たちの統治下にあるという確信、私たちは物質、物理学の法則を超えた、より高度な視点、霊的、形而上学的な視点から見ることができるという、確信があるのではないのでしょうか。

ごく最近、イエスが嵐を鎮めた話について新しい見解を聞きました。それは、イエスが、嵐を鎮めたのではなく、むしろ彼は自分の平安に周りの人を招き入れたというものです。つまり、物質の法則を統治しているという確信からくる平安です。神性の法則の下で、嵐は無になり、無力になるのです。キリスト・イエスにとって、嵐は本当の力ではなく、平安が唯一の力だったのです。

イエスは私たちに平安を与えることを約束しました。しかし、それは、単に戦争や紛争が無いという、人間的条件についての平安ではありませんでした。彼は、永遠の平安、どこにでも遍在し、宇宙の秩序を保つ平安を意味したのだと、私は思います。

私たちはこの平安を失ったのでしょうか。いいえ、そんなことは絶対にありません。私たちは、この平安を、今ここで、体験することができるのです。私たちは、この平安とともに生まれてきたのですから、これを再生させ、私たちの考えの最先端に置き、メリー・ベーカー・エディの言う「複合理念」（『科学と健康』、p.585）である「地球」を、統治することができるのです。このように考えると、地球は、あらゆる正しい霊的理念によって

Author's Name / Fujiko Signs

できていることが分かります、つまり、平和、冷静、知性、創造力、寛大さ、そして愛などによってできているということです。そこで、人は、私たち全てを含み、創世記の第1章に示されているように、神の映像と似姿に造られており、最も高度な理念であって、いわゆる「自然」というものを統治することができるのです。自然は、調和と善である神性の意志と、一致していなければなりません。ですから、災害は、自然ではなく、不自然なのです。イエスは、嵐など、私たちが神性の権利を行使することを妨げる雑音を、どのように統治下に置くか示してくれた教師であり、手本です。

日本は、この非常事態にあっても、平安と落ち着きを保っています。それは災害に屈服し、あきらめているからではなく、私たちが、生来、この愛に満ちた平安を知り、感じているからです。イエスは、クリスマスの季節になると「平和の君」と呼ばれますが、飛び交う天使たちが、神の真の、そして唯一の意志、「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように」(ルカ 2:14)という聖書の話思い出させてくれます。

イエスはまた、このようにも言っています：「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな」(ヨハネ 14:27)。この平安こそ癒しの力です。今日、私たちは、物質的な破壊を霊的に統治することを宣言して、この平安を意識することができます。皆さまのささげる祈りと愛は、この平安を世界中にもたらしめます、そして、私たちの美しい故郷、地球を、統治するでしょう。

Author's Name / Fujiko Signs